



# プロジェクトニュース 拡大版

## シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「次のステージへ」GO!

2013年4月2日 (Vol.32)

### 目次

はじめに 一次のステージへー

1. 着任の挨拶 ーシエラレオネ、海水の洗礼ー

2. 現場活動の実況中継

2.1 新記録達成!

2.2 川を渡るフィーダー道路

3. プロジェクト進捗報告

3.1 研修計画・実施支援

3.2 村落開発モデル構築：モデルワード事業

4. 大好評のコラム：シエラのチカラ

4.1 プロジェクト雇用ドライバーの結婚式

4.2 シエラのチカラ プラス リーダーのチカラ

5. 大好評のコラム：ごつつあんです、シエラレオネ!

第29話：特大 肉団子！ 決して一人では行かないでください

第30話：発表！独断と偏見によるシエラレオネの絶品上位3品

6. 編集後記：離任にあたり



シエラレオネ



プロジェクト対象県



\*プロジェクト HP にもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

## はじめに 一次のステージへ GO!

カウンターパート機関である地方自治地域開発省に新しい大臣が着任し、2013年の活動も本格的に始まりました。

新しい大臣は地元でビジネスを手がけつつ、県議会の議長を務めていたそうです。非常に行動力があり、実務に長けている方です。新大臣をはじめとするカウンターパートとの信頼関係構築は「次のステージへ GO!」です。

専門家チームも交代の時期に入りました。プロジェクトの体制も「次のステージへ GO!」です。

2月には、フィーダー道路改修工事竣工式がポートロコ県とカンビア県でそれぞれ行われました。式典には、在ガーナ日本大使館及び JICA 事務所代表、地方自治地域開発省大臣、副大臣、北部州大臣、県議会議長など多くの来賓が出席し、盛大に行われました。

式典の中で、フィーダー道路が改修されたことで、医療機関や学校、市場へのアクセスが容易になったなどの感謝の言葉が続きました。また、県議会・道路事務所・地元住民ら関係者の完工までの尽力が称えられました。最後に、関係者による維持管理の大切さが複数の来賓から伝えられました。道路の維持管理に向け、「次のステージへ GO!」です。

プロジェクト目標達成に向けた新たな幕も開きました。プロジェクト目標は「カンビア県とポートロコ県において、より効率的で効果的な県・村落開発管理の体制と機能を強化する」です。

プロジェクト対象地域である2県での成功事例や国の政策の検証結果を盛り込んだ、開発モデル「県・村落開発ハンドブック」の活用と普及のために、会議がもたれました。カウンターパートから「プロジェクトの成功事例を他の県に普及したい」「県・村落開発ハンドブックのここが非常に役立っている」などと、力強い発言が続く度に、心強く思いました。県・村落開発モデル普及に向け「次のステージへ GO!」です。

CDCD プロジェクトとカウンターパートが一体となった素晴らしいチーム。 このチームが今後、シエラレオネに残せるものを想像すると、期待で胸がいっぱいになります。 平林リーダー



大臣室にて：写真右から、地方自治地域開発省新大臣、プロジェクトリーダー、同省次官



フィーダー道路竣工式テープカット：写真右から、地方自治地域開発省次官、大臣、北部州大臣、在ガーナ日本大使館本田一等書記官



県・村落開発モデルの説明をする副主席行政官（右）

\*\*\*\*\*

## 1. 着任の挨拶 –シエラレオネ、海水の洗礼–

まだ肌寒い日本から、今月中旬、シエラレオネに到着しました。飛行機を降り立ち、モワットとする空気に包まれた瞬間、「アフリカだ！」と実感しました。

空港でのスムーズな対応に気をよくしていたのもつかの間、現地旅行代理店の方に連れられ、噂には聞いていた水上バス乗り場に誘導されました。

マイクロバスを乗り継いで、ボート乗り場に降り立ったときは、正直ギョっとしました（！）。夕暮れの荒波に揺れる一隻の小型モーターボート。シエラレオネ初心者の私にはそう見えました。

乗り心地は・・・見た目どおりでした。さらに座った場所が悪かったせいか、モーターボートのビニール製の窓には隙間があり、そこからわりと多めに海水を浴び、シエラレオネの海を体感しました。ですが、窓の隙間から見える海に沈む夕日はなんともいえない絶景でした。

翌日より、フリータウンから赴任地であるポートルコ県に移り、関係者への挨拶周りを行っています。現地の関係者や現地プロジェクトスタッフから「ウェルカム！」と笑顔で握手され、改めてカウンターパート・現地スタッフと日本人専門家の良好な関係性を実感しました。

また、事務所内でも、「元気？」、「大丈夫？」と気遣って声を掛けてくれる現地スタッフ。与えられた仕事を黙々とこなす現地スタッフ。素敵です。

昨年まで隣国のリベリアにいたため、ついついシエラレオネとリベリアを比較してしまいがちですが、個人的にはリベリア人が「元気な関西のおっちゃん」だとすると、シエラレオネ人は「穏やかな面倒見のいいおっちゃん」です（勝手な印象ですが）。リベリア派からシエラレオネ派へと移行しそうなほど、職場環境は快適です。

これまでプロジェクトに尽力されてきた専門家によって築かれた関係者間の良好な関係を継続しながら、プロジェクト終了までカウンターパートそして現地プロジェクトスタッフ共に頑張りたいと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

前川専門家（業務調整）



にこやかに作業するナショナルスタッフ。ポートルコ県プロジェクト事務所にて



前川専門家（左）と澤池専門家（右）。プロジェクト車両の給油中、ガソリンスタンドにて。

\*\*\*\*\*

## 2 現場活動の実況中継

### 2.1 新記録達成！

3年目のモデルフィーダー道路改修プロジェクト。各所に関係者の能力向上が見られますが、一番の進歩は入札、評価の過程です。この点に関しては、効率化と透明性の確保を目的に助言しています。

カンビア県での開札式。ここでの主役は調達官です。この調達官は最近、東部の県からカンビア県に異動してきており、過去2年間はプロジェクトに関わっていません。当然、昨年までのプロジェクトの手法は知らないはずですが、事前に他の職員やプロジェクトのスタッフから説明を受け、準備をしていました。

さて、当日は、調達官の主導のもと、7社の応札書の確認を、職員・業者の出席のもと、約2時間で無事終了しました。昨年は、4社で1時間半程度。新記録です！

ポートルコ県での評価委員会。ここでは、応札書の評価します。主役は、調達官とエンジニアです。両者はプロジェクト開始時からいるので、もう3回目。プロジェクトのスタッフの、若干の支援を受けながら、県議会のアシスタントとともに順調に準備を進めていきます。

評価の当日、分からない箇所等の確認をしつつ、集中して9社の応札書を4時間で、問題無く終了しました。昨年は、4社の応札書を3時間で終了。またまた、新記録です！！（ただ、あとで確認したら2-3の見落としがありました。。。）。

両県議会とも、「任せておけ、心配するな」と言っていました、その通りでした。透明性の確保と時間の短縮。目に見える進歩はうれしい限りです。

宿谷専門家（道路計画/設計・施工監理/維持管理担当）

\*\*\*\*\*

### 2.2 川を渡るフィーダー道路

ポートルコ県の南部にあるルケール川は、幅が50m近くもあろうかと思われる大きな川です。

プロジェクト対象地域の道路を走るとこの川に出ます。そして対岸の道路も同じ路線です。シエラレオネ第2の都市、ボ県に至り、反対は北部州の州都マケニに至るといふかなり重要な道路です。



ポートルコ県の開札式。机の真ん中の入札図書のを山を淡々と片付けていきます。



カンビア県で真剣に入札図書の評価する評価委員（エンジニア）、調達官。助言する宿谷専門家（右）。こちらも新記録で滞りなく終了です。

しかし、ここには橋がありません。従って、車は人力フェリーに乗って対岸に運ばれます。この動力は地元の人々の人力に拠ります。これらの人々には道路局からわずかながらの賃金が出ているようです。

我々が訪れたとき、このフェリーは止まったままでした。聞いてみると、ここ暫く賃金が出ていないという不満を聞きました。どうやらストライキの最中のようなようです。

残念とばかりに道路局担当官に電話を入れました。しばらく時間が経過した後、ようやく道路局の担当官がやってきて、早速地元の責任者らしき人と話会いになりました。

時に激しい言葉の応酬の後、結局、なるべく早く支払うからという約束の下、我々に車をフェリー上に移動させろといいます。ほどなくフェリーは動き始めました。兩岸に渡したワイヤーを手繰って進むシステムですが、木製のしゃもじのようなものでワイヤーを挟んで引きます。



武田専門家@日本



イカダのような人力フェリー



兩岸にあるワイヤーを木のしゃもじの様なもので引く

試しに、我々もちょっと手伝わせてもらいました。これが思いのほか、面白い。静かな川面をゆっくり進みます。ここも国が管理する道路の一部なのです。橋の建設を要望する声もあると聞きます。ここに橋を建設すれば重交通が押し寄せるというのなら話は別ですが、こうした赴きのある水上の道も良いのでは…と思った次第です。

武田専門家（施工監理/維持管理担当）

\*\*\*\*\*

### 3. 活動の進捗報告

#### 3.1 研修計画・実施支援

研修分野では、カンビア、ポートルコ県議会の人事担当官が主体となって業務の事例集を作成しました。

この事例集は、カンビア、ポートルコ県議会の人事担当官が実践している活動を紹介しています。

地方議会の人事担当官は、大学を卒業したての社会人1年生が多く、やる気はあっても市・県議会で自分が何をやっていいのかわからないことが多いようです。



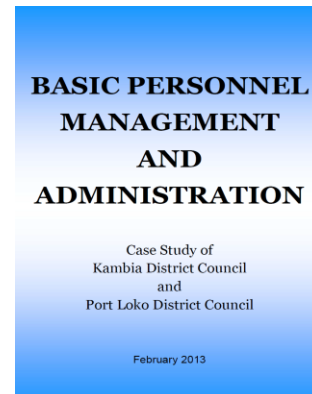
両県議会の人事担当官と事例集について打合せ。反町専門家（右）

そのなかで、カンビア、ポートルコ県議会の人事担当官は、CDCDプロジェクトからの助言や支援を受け、よりよい議会運営のために積極的な活動を進めています。

昨年実施したスタディツアーでは、カイラフン県、プジョン県の人事担当官にも熱心に自分の活動を紹介していました。



スタディツアーで他県議会の人事担当官に書類管理方法を教えるカンビア県議会の人事担当官



事例集

また、全国の地方議会の人事担当官が集まる場では、人事担当官同士でお互いの活動を話す場も多いそうです。そのような場でも、カンビア、ポートルコ県議会の人事担当官は自分たちの活動を紹介しているようです。

この事例集は、カンビア、ポートルコ県議会の人事担当官が、他の市・県議会の人事担当官に自分たちの活動を知ってもらい、他県での業務推進の参考にして欲しい、という思いも込められています。

事例集は、本省からシエラレオネ全国の19の地方議会へ配布されることになっています。今後、全国の地方議会の人事担当官がそれぞれの市・県議会で活躍することでしょう。

反町専門家（研修計画・実施支援担当）

\*\*\*\*\*

### 3.2 村落開発モデル構築：モデルワード事業第二フェーズ

3月、ポートルコ2ワード、カンビア4ワードで土地引渡し式が行われ、モデルワード事業第二フェーズの工事が開始しました。

工期は約3か月で6月末をめどに各施設が完成する予定です。全6件の事業ですが、手押しポンプ改修、診察所スタッフ宿舍建設、小学校校舎建設2件、コミュニティセンター建設、市場のトイレ・手押しポンプ建設、となっています。

第一フェーズではポートルコ、カンビア両県合計6事業中2事業で遅延が発生し、遅延した業者は遅延損害弁済金を支払うという事態まで発生しました。

これは県議会職員が契約書に書かれている遅延に対するペナルティ規定を厳格に履行したという反面、自分たちが選定した業者を指導・監督したにもかかわらず住民に対して工程通り施設を届けることができなかったという悔しい現実でもありました。



住民と関係者が集まった起工式の様子



小学校校舎建設用のブロック作り

他方、今フェーズのモデルワード事業は、井戸の建設を含むため、5月には始まってしまいう雨季までに、どれだけ建設工事を進められるかという点でハードルが高くなります。



写真左：図面を見て工事進捗を監督する県議会職員（中央）、写真右：小学校校舎建設の現場

そこで今回は、両県議会職員、特にエンジ

ニアの業者への定期的な技術的指導に加えて、モニタリング評価担当官のコミュニティを巻き込んだモニタリングのニーズが高まっています。

建設現場周辺に居住するコミュニティ住民の日々のモニタリングは、物理的に建設現場への訪問回数に限られてしまう県議会職員の大きな助けとなります。さらには、住民の施設に対するオーナーシップを高め、完成後の維持管理の意識を根付かせることになると考えられます。

両県議会職員の一層の活躍に期待しています。

池上専門家（村落開発担当）

\*\*\*\*\*

#### 4. 大好評のコラム：シエラのチカラ

##### 4.1 プロジェクト雇用ドライバーの結婚式

CDCD プロジェクトの開始当初からドライバーとして働いているGさんが結婚しました。シエラレオネでは結婚制度が日本よりも緩く、事実婚を続けて暫くしてから正式に結婚する例が多いようです。Gさんも長男は既に11歳というから、かなり長い事実婚を経て正式な結婚に至ったようです。

結婚式の写真をたくさん撮ったというので見せてもらいました。どの写真にも大きな包みが写っています。これは何かと聞くと、新郎側から新婦側に贈るもので、伝統的にとても重要な意味を持つものだといいます。



左から双子の姉（妹？）、新郎、新婦

包みの中身は、コラの実100個、塩、白い布1枚（亡くなった人を埋葬する時に包むためのもの）、針1箱、白い糸、服のための布地（新婦の母用）、靴、現金等。それらを調理用の鉢に入れ、お祈りをする時に女性が頭に被る白い布で包み、上部にお祈り用マットを差して新婦側に渡すそうです。

コラの実は特に重要なアイテムで、新婦側の親戚が食べれば結婚を承認したことになるとのこと。Gさんは無事、新婦側の親戚から結婚を認められたということです。

現金については額も聞きましたが、Gさんの給料の2~3カ月分でした。全ての贈り物を準備し、こうした結婚式を行うために貯金をしていたということです。

そこで、「どのくらいの期間、貯金してたの？」と尋ねたら、CDCD プロジェクトに雇われて以降、少しずつ貯金をしていたとの返事。Gさんの採用は2010年3月なので、3年間貯金をしていたこととなります。

Gさんは更に、「プロジェクトに雇われる前はボランティアのドライバーだったから貯金はできなかった。プロジェクトのお蔭で結婚できた。プロジェクトは自分の結婚をサポートしてくれた。」と笑顔で話してくれました。

5月にはGさんの地元で結婚式を行うそうです。その日のために結婚指輪と自分用のスーツをこれから用意するとのこと。いつも真面目なGさんですが、今後も一家の大黒柱として働いて、幸せな家庭を築いていって欲しいと思います。

\*記事の内容、写真についてはご本人の了解を事前に取り付けております。

澤池専門家（業務調整）

\*\*\*\*\*

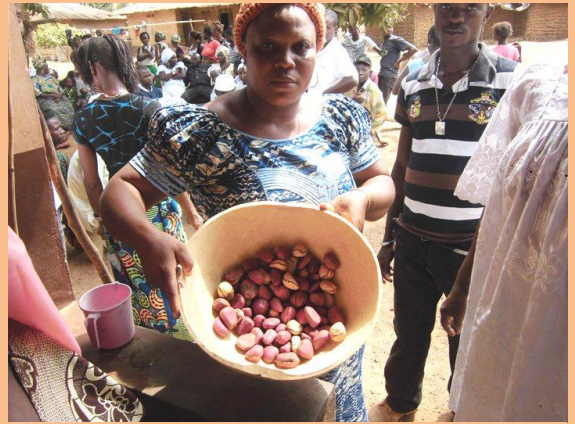
#### 4.2 シェラのチカラ プラス リーダーのチカラ

シェラのチカラになるために、3年半尽力された平林リーダー。その3年半のシェラでの仕事ぶりの番外編をお送りしたいと思います。

リーダーの重要な仕事の一つに、カウンターパートとの関係作りがあります。特にCDCD プロジェクトは、リーダーが首都の地方自治地域開発省（本省）内に事務所を構え、大臣以下、本省内のカウンターパートと良好な関係を築いています。これが、地方での活動を円滑に進められる一つの要因です。

##### カウンターパートとの関係①—大臣までもが、

ある日の休日、平林リーダーが自家用車を運転していたところ、警官に呼び止められる一件がありました。理不尽な住民の主張に、警官とリーダーが困ります。プロジェクトの内容とリーダーの立場を説明してもらうために、リーダーが申し訳なく大臣に電話をしました。日曜日の午前でしたが、ちょうど近くにいるとのこと。大臣がわざわざ交番まで駆けつけてくれ、万事解決です。プロジェクトの成功、そしてシェラの発展のために、現場に駆けつけてくれる大臣と、良好な関係を構築しているリーダー、さすがです。



新婦の親戚はコラの実を食べ、結婚は承認されました。



道路の起工式で、テープカットの前に並ぶ平林リーダー（中央）と前大臣（右隣）。こういうときはいつもとなりで絆を感じます。



## カウンターパートとの関係②ー地方自治地域開発省職員もプロジェクトスタッフの一員、、、

プロジェクトの実施には、様々な事務処理・雑務がありますので、通常ナショナルスタッフを雇用します。ただし、リーダーの事務所にはスタッフがいません。そのわけは、、、

本省の職員がプロジェクト業務を自主的に手伝ってくれるのです。機材購入の際の見積も本省の調達官が集めてくれます。セミナー等の準備もほとんど、本省の職員がやってくれます。県・村落開発ハンドブックの編集も次官補佐が活躍します。仕事がないとリーダーに聞きにくるほどです。



モデルワードプロジェクトの竣工式でのスピーチをするリーダー。維持管理の大切さを訴えます。

プロジェクトの成功のために、率先して働くシエラの人たちとその雰囲気を作り上げているリーダー、さすがです。

## カウンターパートとの関係③ー“チカラ”を引き出す“リーダーのチカラ”

シエラレオネの人々の仕事ぶりは、のんびり楽しく、でもやる時はやる。そんな彼らの“チカラ”を引き出すことが専門家にとって一番大変なことでもあります。

プロジェクトでは、カウンターパートの“チカラ”を引き出すべく、リーダーが率先して楽しく盛り上げ、そして時には厳しく指導をしています。

普段は首都の本省に勤務するリーダーが、カンビア、ポートロコ県議会で仕事をしていると、とにかくたくさんの方がリーダーと楽しく盛り上がり、県議会は賑やかになります。そして、彼らのモチベーションも上がるようです。このモチベーションが、彼らの能力向上に繋がります。

プロジェクトのスタッフは心なしか緊張しているようにも見えますが、みなリーダーに、仕事の成果を見せることを楽しみにしています。スタッフのモチベーションもカウンターパートの能力向上を支える“チカラ”になります。

シエラにはたくさんの“チカラ”がありますが、リーダーの“チカラ”もシエラの“チカラ”を引き出す“チカラ”だったのではないのでしょうか。

宿谷専門家・反町専門家

\*\*\*\*\*

## 5. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ

### 第 29 話：特大 肉団子！決して一人では行かないでください

今回は、フリータウンと空港を結ぶ水上ポート発着所がある、アバディーンブリッジ近くに昨年開店したばかりの「Ming Li」をご紹介します。

このお店、決して一人では行かないでください、。ホラー映画ではありません。でも、一品一品の量に、「うわーっ」という悲鳴を上げるかもしれません。

このお店、出るんです、。「てんこ盛り」が。

日本のノリで、「ラーメンと餃子」、なんて頼んだら、あなたはお店から帰れなくなるかも。

歓声が上がった一品は、巨大肉団子。ビリヤードのボールよりも大きい肉団子がお皿の上に、4つものってるんです。これはすごい、です。

噂によると、中国大使館関係者の間で、このお店は少々品位にかけるらしく、あまり来店されなにか。

でもひらしゅらんは、このお店が大好きです。このお店のよさは、料理の量・味、従業員ののんびりしたところ、など数多くあります。

もうひとつ、気に入っているところは、昼間いくといつも空いていることです。周りにお客さんがいませんし、従業員も食事を出した後は、私たちの存在を忘れていくかのように、ほったらかしにしてくれます。そこで、自宅で食事するかのように、食後は後ろにあるソファでゆっくりリラックスできます。

メニューにないものを頼んでも快く作ってくれます。そしてなんといっても一品一品がどれもおいしい！

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。おいしい。でも決して一人では行かないでください、。、。

\*\*\*\*\*



特大肉団子！しかも1皿に4つ！



メニューにない一品：ラーメンてんこ盛り



1皿に20個の餃子



豚の皮を使った冷菜てんこ盛り

#### 4. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ

##### 第30話：発表！独断と偏見によるシエラレオネの絶品上位3品

シエラレオネでおいしい食事を取材し続けて3年半。

毎回の食事がとても貴重な機会であり、元気の源になりました。

ひらしゅらんの取材最終回は、独断と偏見によるシエラレオネの絶品上位品3を発表します。

第3位は、鯖のグリル。肉厚でジューシーな鯖は日本でもなかなか味わえない一品です。

第2位は、ロブスターの刺身。食感はこりこり、そして甘い。これもなかなか出会えない一品です。

そして第一は、、、ボイルしたカニです。

グリルしたカニもいいですが、硬い殻の中にある甘い身の成分を存分に味わえるのは、ボイルしたカニ。ロブスターもいいですが、カニの身の甘さにはかなわない。

こうして振り返ると、素材のうまみをいかしたシンプルな一品がシエラレオネでもっともおいしいものでした。

カメラ片手に取材する食事のひとは楽しく、食事を提供してくれる皆さんとのコミュニケーションでさらに味わいが深まりました。

まだまだご紹介していないお店、食材は沢山あります。

またどこかで、皆さんに現地の食情報をお届けできる日が来ることを夢見て、ひとまず、ひらしゅらんのシエラレオネでの取材はこれにて幕を閉じます。

取材にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

シエラレオネで食事を作っていたいただいた皆さん、本当に「ごっつあんでした！」。

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。やっぱり素材が一番大切なんですかね～。



夜食べるカニ



大勢で食べるカニ。カニの大名行列、圧巻です。

\*\*\*\*\*

## 編集後記 ー離任にあたりー

CDCD プロジェクトが始まりました 2009 年 11 月から 3 年半の間に、プロジェクトニュースの発行も回を重ね、今回で 32 号の発行となりました。32 号というとホームランキングになれそうな数字です。この快挙を成し遂げることができましたのも、プロジェクト専門家皆さんと関係者皆さんのご尽力、そして読者の皆さんからの暖かいメッセージのおかげです。



情報の少ない西アフリカにあるシエラレオネ。プロジェクト専門家一同で、プロジェクトの活動を少しでもわかりやすく、かつ、なじみやすくお伝えしようと努めてまいりました。

業務だけではなく、私たちが垣間見た現地の人々の生活、習慣、文化などなど、シエラレオネに駐在しないとわからないような情報を発信し、少しでも皆さんにシエラレオネのことを知っていたいただければと願っておりました。



CDCD プロジェクトニュースが、ささやかなシエラレオネ親善大使として、少しでもお役に立てたならばいいことはありません。

2013 年 4 月の離任にあたり、これにてプロジェクトニュース編集長の役に幕を閉じさせていただきます。

これまでご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。また、暖かいメッセージをお寄せいただいた読者の皆様、誠にありがとうございました。いただいたメッセージでどれだけ励まされたことでしょう。

これからも CDCD プロジェクトをよろしくお願いいたします。

(編集長)

\*\*\*\*\*

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009 年 11 月～2014 年 10 月 (5 年間)

対象地域：カンビア県 (25 ワード：人口約 30 万人)、ポートルコ県 (7 ワード：人口約 9 万人)

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会



派遣専門家：平林リーダー、澤池専門家 (業務調整)、前川専門家 (業務調整)、反町専門家 (研修計画)、池上専門家 (村落開発)、武田専門家 (施工監理/維持管理)、2013 年 3 月実績